

# Create! Form アップデートマニュアル

[V 6 → V 9]

FormPrint

FormCast

2010年6月

インフォテック・アーキテクト株式会社

## 目次

1. はじめに .....	3
2. 互換性の概要 .....	4
3. アップデートの概要 .....	6
4. アップデート手順 .....	8
4.1. V 9 製品のインストール .....	8
4.2. 互換性に関わる項目の確認 .....	9
4.3. 互換設定の適用 .....	11
4.3.1. 開発環境 .....	11
4.3.2. 運用環境 .....	12
4.4. 資源ファイルの変換 .....	13
4.5. 資源ファイルの修正 .....	13
4.6. ユーザー設定ファイルの移行 .....	13
4.6.1. QDFファイルのコピー .....	14
4.6.2. データ編集定義のコピー .....	14
4.6.3. 外字ファイルのコピー .....	14
4.6.4. カラーパレットファイルのコピー .....	15
5. 互換性の詳細 .....	16
6. Java APIの互換性について .....	26
7. XMLデータのエンコーディングについて .....	27
8. おわりに .....	28

## 1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のもとの互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または利用技術の変化や市場のニーズに追従させる事などの目的で改良を行いますが、この改良を行う時には、従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するように努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、Create!Form 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン：Version 6（以下V 6と記述）

アップデートバージョン：Version 9（以下V 9と記述）

※本マニュアルで、「開発環境」については Create! FormDesign、「運用環境」については Create! FormCast、Create! FormPrint の製品が導入された環境を示します。

## 2. 互換性の概要

V 6 から V 9 へのアップデートにおいて基本的には互換性がありますが、一部の仕様が変更されていますので、そのままでは出力結果において従来と差異を生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか、どのようにアップデートを行うかの計画を立てるために、その概要について説明します。

以下に、V 6 から V 9 において仕様に差異のある機能について記述します。互換性に関わる仕様一覧の各項目は、帳票の入力データの形式や、機能により分けて列挙してあります。各項目には、A、B、C、... の識別文字が付加されていますが、これは、本説明書を通して共通して使用している識別文字です。それぞれの詳細については、「5. 互換性の詳細」にて説明しています。

### ■ 互換性に関わる仕様一覧

[フォーム関連]

- A. イメージ変数の出力位置の扱い (Print のみ)
- B. 同名の変数名の扱い (Print のみ)
- C. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- D. テキスト変数の配置設定の扱い
- E. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い

[機能関連]

- F. フォーム変数の扱い
- G. 空データに対するデータ編集の扱い
- H. グラフ変数 (積み上げ棒グラフ) の凡例の扱い

[入力データ関連]

- I. XML データ形式の扱い

[フォント関連]

- J. PostScript フォントの表示の扱い

[API 関連]

- K. EXE ランタイム (Windows 版) の戻り値の変更

これらの各項目については、特定の設定を行うことで互換性を維持できるものとフォームファイルなどの資源ファイルを変更して対応できるものがあります。以降では、導入と互換性を維持するためにはどのように対処すればよいかについて記述してあります。

**重要**

V 6 ご利用の際に、さらに下位のバージョン（V 4、V 5）の互換設定を行っていた場合は、V 9においても、その互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは弊社サポート HP よりダウンロードできます。

[V 4 用アップデートマニュアル]

Create!Form アップデートマニュアル [V 4→V 8]

- ・固定テキスト幅と領域枠の扱い

(V 8 用のマニュアルとなりますが、V 9 においても同等の内容となります。)

[V 5 用アップデートマニュアル]

Create!Form アップデートマニュアル [V 5→V 9]

- ・テキスト変数の文字間隔の扱い
- ・テキスト変数の流し込み処理の扱い

### 3. アップデートの概要

V 6 から V 9 へのアップデートは、通常次のような流れになります。

- ・ V 9 製品のインストール
- ・ V 6 資源ファイルから V 9 資源ファイルへの変換
- ・ V 6 ユーザー設定ファイルの V 9 環境への移行

上記作業を行うことで V 9 での出力を行うことは可能となりますが、そのシステムでご利用の帳票が、「互換性に関わる仕様一覧」のいずれかの項目に該当する場合は、その該当項目について V 6 での出力と同じ結果が得られない可能性があります。出力結果を同じにするためには、**互換性を保つための作業**を行う必要があります。

ご利用の帳票が「互換性に関わる仕様一覧」の項目に該当するかどうかは、製品の資源ファイルバージョンアップツール (UpToV9) にて確認することができます。これについては、「4.2 互換性に関わる項目の確認」をご覧ください。

互換性を保つための作業とは、次の 2 つの作業になります。

- ・ 互換設定の適用
- ・ 資源ファイルの修正

この 2 つの作業は、「互換性に関わる仕様一覧」の該当する項目により、どちらか一方、もしくは両方を行う必要があります。

#### 互換設定の適用

互換設定は、Create!Form の設定ファイル (Windows) や、環境変数 (Linux/UNIX) に固有の設定を追加することで、V 6 と同等の出力結果を得ることが可能になるものです。互換設定が用意されている項目に対して、それぞれ設定を追加します。互換設定が用意されている「互換性に関わる仕様一覧」の項目は以下のとおりです。

- A. イメージ変数の出力位置の扱い
- C. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- E. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い
- G. 空データに対するデータ編集の扱い
- J. PostScript フォントの表示の扱い

実際の設定は、以降のアップデート手順、および「5. 互換性の詳細」の各項目の記述に沿って実施してください。

### 資源ファイルの修正

資源ファイルの修正を行うことでV 6 と同等の出力結果を得ることが可能になるものです。資源ファイルの修正の対象となる「互換性に関わる仕様一覧」の項目は以下のとおりです。

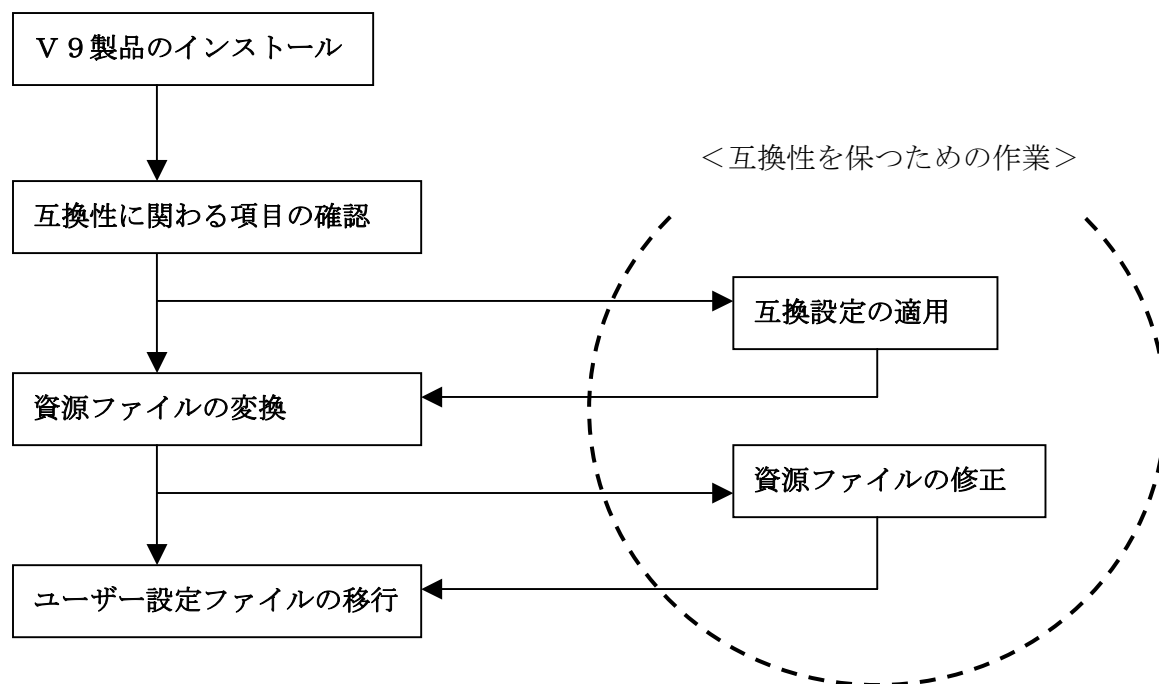
- B. 同名の変数名の扱い
- D. テキスト変数の配置設定の扱い
- F. フォーム変数の扱い

実際の資源ファイルの修正は、以降のアップデート手順、および「5. 互換性の詳細」の各項目の記述に沿って実施してください。

## 4. アップデート手順

ここではシステム環境にV 9をインストールし、アップデートする手順を示します。

図1. アップデートの流れ



資源ファイルとは、フォーム、データマップ、スタイルの各帳票資源ファイルのことをいいます。ユーザー設定ファイルとは、各種の実行制御を行う設定を記述する QDF ファイルなどをいいます。

V 6 の出力と同じ結果を得るための互換性のあるインストールを行う場合は、点線の円内の作業もあわせて行います。以降では、四角で示したそれぞれの作業について、順を追って説明していきます。

### 4.1. V 9 製品のインストール

まず最初にV 9製品のインストールを行います。V 9製品のインストールは、V 9製品の「インストール」マニュアルの手順で行っていただきますが、V 6製品がインストールされた環境と同じ環境へインストールを行う場合、以前のV 6製品とは異なるディレクトリへインストールしてください。インストールは、利用する製品すべてを行います。（ここでは、FormDesign、FormPrint、FormCastのいずれか、または全て。）

注) 同じ環境へV 9製品をインストールするとV 6製品のAPIによる呼び出しなど一部機能が利用できなくなります。（APIからはV 9製品が呼び出されるようになります。）



## 4.2. 互換性に関わる項目の確認

ご利用の帳票が「互換性に関わる仕様一覧」の項目に該当するかどうかは、製品付属の資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV9）にて確認することが出来ます。

V 9において、確認できる項目は以下のとおりです。確認項目は、資源ファイルごとに分かれています。

- ・ fmd ファイル（フォームファイル）
  - A. イメージ変数の出力位置の扱い（Print のみ）
  - B. 同名の変数名の扱い（Print のみ）
  - C. テキスト変数の流し込み処理の扱い
  - D. テキスト変数の配置設定の扱い
  - E. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い
  
- ・ dmp ファイル（データマップファイル）
  - F. フォーム変数の扱い
  
- ・ sty、stx ファイル（スタイルファイル）
  - I. XML データ形式の扱い

確認は以下の手順で行います。

- ① V 9 製品付属の“UpToV9”を起動します。  
スタートメニューの [FormDesign ツール]、マネージャのメニュー [オプション]-[UpToV9] より起動できます。
- ② 「変換元ディレクトリ」に V 6 の資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
- ③ 「V 9 互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
- ④ 互換性に関わる項目に該当する資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック] ダイアログが表示されます。また、製品導入ディレクトリ直下の log ディレクトリにチェック結果のログファイル “UpToV9\_Diff.log” が出力されます。

**[互換性チェック]ダイアログの見方**

- ・ [ファイルリスト] … 互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty、stx) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の[チェック項目リスト]に表示されます。

## &lt;fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目&gt;

## &lt;出力位置&gt;

「A. イメージ変数の出力位置の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「出力位置」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

## &lt;変数名重複&gt;

「B. 同名の変数名の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「変数名重複」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

## &lt;流し込み&gt;

「C. テキスト変数の流し込み処理の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「流し込み」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

## &lt;配置設定&gt;

「D. テキスト変数の配置設定の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「配置設定」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

## &lt;上下位置&gt;

「E. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「テキスト文字列 (10 バイト分)」と共に、「上下位置」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

**<PS フォント>**

「J. PostScript フォントの表示の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「PS フォント」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

**<dmp ファイル (データマップファイル) のチェック項目>****<フォーム変数>**

「F. フォーム変数の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「フォーム変数」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

**<空データのデータ編集>**

「G. 空データに対するデータ編集の扱い」に該当するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「変数名」と共に、「空データのデータ編集」項目に「○」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

**<sty、stx ファイル (スタイルファイル) のチェック項目>****<入力データ形式>**

「I. XML データ形式の扱い」に該当するデータ形式かどうかを表示します。

[XML]と表示されている場合は、「H」に該当します。

### 4.3. 互換設定の適用

ここで説明する互換設定は、「互換性に関わる仕様一覧」に該当し、その対応を行う場合に設定します。開発環境と運用環境のそれぞれの製品について、また運用環境については OS 毎に記述してありますので、ご利用の製品記述の部分をお読みください。

尚、4. 2の互換設定の各項目に該当しない場合、この作業は行う必要はありません。

#### 4.3.1. 開発環境

開発環境の互換設定について説明します。開発環境は Windows の FormDesign 製品です。次の手順で該当項目のそれぞれの設定を行います。

**<各互換設定の適用>**

- ① V 9 の FormDesign 導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
  - ・ [Common]セクションに”ImageOffset=1”と入力します。 (A の互換設定)

- ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (Cの互換設定)
  - ・ [Form]セクションに”TextPosMode=1”と入力します。 (Eの互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (Gの互換設定)
  - ・ [Form]セクションに”ChangeFontType=1”と入力します。 (Jの互換設定)
- ③ “CreateV9.ini”を上書き保存します。

#### 4.3.2. 運用環境

運用環境の互換設定について説明します。運用環境は FormPrint、FormCast の製品種別と、Windows、UNIX の OS 種別で分けて説明しています。次の手順で該当項目のそれぞれの設定を行います。

##### 4.3.2.1. Print 製品

[Windows 製品]

- ① V 9 のランタイム製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
- ・ [Common]セクションに”ImageOffset=1”と入力します。 (Aの互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (Cの互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (Gの互換設定)
- ③ “CreateV9.ini”を上書き保存します。

[UNIX 製品]

- ① 環境変数 ”CREATE\_IMAGEOFFSET” に”1”を設定します。 (Aの互換設定)
- ② 環境変数 ”CREATE\_PARAEDITMODE” に”1”を設定します。 (Cの互換設定)
- ③ 環境変数 ”CREATE\_DATAEDITMODE” に”1”を設定します。 (Gの互換設定)

##### 4.3.2.2. Cast 製品

[Windows 製品]

- ① V 9 のランタイム導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
- ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (Cの互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (Gの互換設定)
- ③ “CreateV9.ini”を上書き保存します。

[UNIX 製品]

- ① 環境変数 "CREATE\_PARAEDITMODE" に"1"を設定します。 (Cの互換設定)
- ② 環境変数 "CREATE\_DATAEDITMODE" に"1"を設定します。 (Gの互換設定)

#### 4.4. 資源ファイルの変換

この資源ファイルの変換作業は、互換性の問題にかかわらず必ず行います。

V 6で作成使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV9) を使用してV 9で利用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換したV 9の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送して利用します。

- ① V 6の資源ファイル一式を FormDesign V 9をインストールしたマシンに保存します。
- ② V 6の資源ファイルを、FormDesign V 9製品付属の変換ツール (UpToV9) で、V 9の資源ファイルに変換します。

変換ツールについての詳しい説明は、V 9製品のオンラインマニュアル「機能リファレンス」の第9部第1章「バージョンアップ」をご覧ください。

#### 4.5. 資源ファイルの修正

この資源ファイルの修正作業は、「互換性に関わる仕様一覧」のうち、以下の項目に該当し、その対応を行う場合に実施します。資源ファイルのV 9への変換後、V 9開発環境にて資源ファイルに修正を行う手順となります。以下の項目に該当しない場合は行う必要はありません。

- B. 同名の変数名の扱い
- D. テキスト変数の配置設定の扱い
- F. フォーム変数の扱い

詳細な作業手順については、「5. 互換性の詳細」のそれぞれの項目の説明を参照して行ってください。

修正した帳票資源ファイルは、運用環境にコピー、または転送して利用します。

#### 4.6. ユーザー設定ファイルの移行

V 6で使用しているユーザー設定ファイルをV 9環境へ移行する作業を行います。

ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。

- ・ QDF ファイル
- ・ データ編集ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ カラーパレットファイル

V 6 環境にて、独自の設定を追加している場合、そのファイルを V 9 の環境にコピーする必要があります。

#### 4.6.1. QDF ファイルのコピー

V 6 で使用している QDF ファイルを、全て V 9 の導入ディレクトリに上書きします。この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- ① V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”default.qdf”ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V 6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子”.qdf”のファイル (QDF ファイル) を全て、V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

#### 4.6.2. データ編集定義のコピー

データ編集においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、弊社が提供しているデータ編集とは別に、ユーザーが新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。ユーザー定義編集を追加していなければ、以下の手順は必要ありません。この作業は、開発環境にて行います。

- ① V 6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”EFmEdit.dat”ファイルをテキストエディタで開きます。
- ② V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”EFmEdit.dat”ファイルをテキストエディタで開きます。
- ③ ①で開いたファイルの、ご使用のバージョンごとに指定された行のテキストデータを、②で開いたファイルの最終行へコピーします。※下記の表を参照してください。
- ④ ②で開いたファイルを上書き保存します。

#### ※コピー対象となる行

既存バージョン	コピー対象となる行
V 6.0、V 6.1、V 6.2、V 6.3	34 行目以降

#### 4.6.3. 外字ファイルのコピー

外字をご使用の場合、外字ファイル (標準では gaiji.fnt、gaiji.pfn) を V 9 環境へコピーします。外字を使用していない場合は、この作業を行う必要はありません。この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- ① V 6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”font”ディレクトリの外字ファイル (標準では gaiji.fnt、gaiji.pfn) を全て、V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”font”ディレクトリにコピーします。

#### 4.6.4. カラーパレットファイルのコピー

V 6 でユーザー独自の色を作成追加、利用している場合は、そのカラーパレットファイルを V 9 の導入ディレクトリに上書きします。

色の追加を行っていない場合は、この作業を行う必要はありません。

この作業は、開発環境にて行います。

- ① V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” default.plt”ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V 6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子”.plt”のファイル (カラーパレットファイル) を全て、V 9 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

## 5. 互換性の詳細

ここでは、「2. 互換性の概要」で記述された「**互換性に関わる仕様一覧**」のそれぞれの詳細について説明しています。

「**互換性に関わる仕様一覧**」の各項目の先頭に付加されたアルファベットは、以下の説明と共通で、同じ並び順で説明されています。各項目は次のような形式で記述されています。

### 識別アルファベット. 項目タイトル

概要の記述。

[対象]

どのような場合に異なる結果となるかを記述。

[対処]

従来と同じ結果を維持するための対処について記述。

[解説]

補足的な説明記述。

### A. イメージ変数の出力位置の扱い (Print のみ)

イメージ変数に EPS ファイルのデータを投入した時の、出力起点位置の補正機能を加えたことにより、V 6 と V 9 で出力位置が異なる場合があります。

[対象]

次の 1 から 4 の全ての条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. Print 製品を使用している場合。
2. イメージ変数を使用している場合。
3. EPS ファイルを使用している場合。
4. EPS ファイルが (0, 0) 座標以外を基準に作成されている場合。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V 9 で V 6 と同じ位置に出力することができます。

#### Windows

V 9 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”の[Common]セクションに、”ImageOffset = 1”と入力します。

#### UNIX

環境変数 ”CREATE\_IMAGEOFFSET” に“1”を設定します。



**[解説]**

一般的な画像は単体では座標を持ちませんが、高機能な EPS 形式のデータでは描画の基準座標を任意に設定することが可能です。V 6 では、この基準座標が (0, 0) の場合を前提にしているため、基準座標が (0, 0) でない EPS ファイルのズレを変数位置の調整で行った場合、V 9 の改良機能が働くとその調整位置に表示される結果となります。このズレの問題は、最終的には、基準座標が (0, 0) 以外の EPS データを使用しているかどうか依存します。

- ・改良実装開始バージョン：V 7

**B. 同名の変数名の扱い (Print のみ)**

一つの帳票に同名の変数名の変数オブジェクトが複数存在する場合、変数出力の仕様変更により以下のように違いがあります。

- ・ V 6 の場合、全ての変数オブジェクトが表示されます。
- ・ V 9 の場合、先に (下に) 定義された変数が一つだけ表示されます。

**[対象]**

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. Print 製品を使用している場合。
2. フォームに同名の変数オブジェクト名を使用している場合。

**[対処]**

次のように帳票フォーム毎に設定を行うことで、V 9 で V 6 と同じ出力を行うことができますが、併せて、これによる機能制限についてもご確認ください。

**帳票フォームでの設定**

- ① 変数オブジェクトが複数使用されているフォームファイルをフォームエディタで開きます。
- ② [ファイル]メニューの[フォーム設定]をクリックします。
- ③ [ステータス]タブの[旧来方法の出力位置指定]チェックボックスにチェックを入れます。
- ④ [OK]ボタンをクリックします。
- ⑤ フォームファイルを上書き保存します。

**機能制限** (※上記設定を行うと、一部の V 9 の機能が使用できなくなります。)

<使用できなくなる機能>

1. CSV データの集計機能
2. CSV データの重複非表示機能

3. 動的オブジェクト機能
4. オブジェクト色の条件判別機能
5. テキスト変数のリスト形式データの出力機能

**[解説]**

Print 製品の PostScript 出力においては、PostScript 言語との協調による機能も幾つか含まれています。同名変数の出力もこのひとつですが、PostScript 出力以外の製品を追加していくにあたり、この機能の見直しを図った結果、分かりやすさ、機能の整合性などの問題により仕様の変更を行うことになりました。

・改良実装開始バージョン：V 7

### C. テキスト変数の流し込み処理の扱い

テキスト変数の配置設定を「流し込み」に設定した場合の処理可能なデータサイズを拡張したため、出力結果がV 6とV 9で異なることがあります。

※この現象については、V 6 マイナーバージョンによっては、互換モードの適用は行いません。以下の手順で互換モードの適用が必要かどうかの確認を行ってください。

#### Windows

- ① Create!Form 導入ディレクトリの、Cast 製品であれば”PDFEdit.dll”を、Print 製品であれば”PrtEdit.dll”を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- ② [バージョン情報]タブをクリックします。

#### UNIX製品

- ① Cast 製品であれば”CCast --“、Print 製品であれば”CPrint --“を実行します。

表示されたバージョンが”6.1.0.24”以前であれば、以下の対処が必要です。”6.1.0.25”以降であれば、必要ありません。

**[対象]**

次の1、2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. テキスト変数オブジェクトを使用している場合。
2. 配置設定を「流し込み」に設定している場合。

**[対処]**

次のような互換設定を行うことで、V 9でV 6と同じ位置に出力することができます。

**Windows**

V 9の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”の

[Common]セクションに”ParaEditMode = 1”と入力します。

**UNIX**

環境変数 ”CREATE\_PARAEDITMODE” に”1”を設定します。

**[解説]**

処理可能なデータサイズを拡張する改良を行ったことにより、V 6におけるテキストデータが領域をはみ出すなどの現象が改善されております。この結果、出力結果がV 6と異なりますが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっています。

- ・改良実装開始バージョン：V 6.2

**D. テキスト変数の配置設定の扱い**

フォームにおいて、「流し込み」「自動改行」に設定されているテキスト変数が、データマップにおいて「左」「中央」「右」に設定されている場合（フォームファイルとデータマップファイルにて設定の不整合が発生している場合）、次のように出力結果に差異が生じます。

- ・V 6の場合、必ず「左」にて出力されます。  
データ編集を設定している場合は、データ編集が有効になります。
- ・V 9の場合、フォームの設定（「流し込み」「自動改行」）で出力されます。  
データ編集は有効になりません。

**[対象]**

次の1、2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. テキスト変数オブジェクトを使用している場合。
2. フォームファイルで、「流し込み」「自動改行」を設定している場合で、さらに、データマップファイルで「左」「中央」「右」に設定している場合。

**[対処]**

次に示すように、フォームファイルの配置設定を修正します。

**資源ファイルの修正**

テキスト変数において、配置設定を「流し込み」「自動改行」から「左」に変更します。

**[解説]**

テキスト変数の配置設定がフォームとデータマップで異なってしまうケースは、一度データマップを作成後に、フォームにおいてテキスト変数の配置設定を変更した際に発生します。V 9においては、データマップの設定をユーザーが意識せずとも配置設定が有効になるように改良を行いました。

- ・改良実装開始バージョン：V 7

## E. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い

固定テキストの位置合わせ設定を「真中」に設定した場合、次のような差が生じます。

- ・ V 6 の場合は、固定テキストの領域の真中より若干下に表示されます。
- ・ V 9 の場合は、固定テキストの領域の真中の表示されます。

**[対象]**

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. 固定テキストを使用している場合。
2. 位置合わせ設定を「真中」に設定した場合。

**[対処]**

次のような互換設定を行うことで、V 9 で V 6 と同じ改行を行うことができます。

- ① V 9 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”の[Form]セクションに”TextPosMode = 1”と入力します。
- ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。  
または、①設定の後、UpToV9（資源ファイル変換ツール）にて、フォームファイルを変換します。  
この設定は、開発環境にて行います。

**[解説]**

V 9 において、正しい真中位置に出力されるように改良されました。この結果、出力結果が異なりますが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっています。

- ・改良実装開始バージョン：V 7

## F. フォーム変数の扱い

V 6 でのフォーム変数を使用してフォームを切り替える機能が、V 9 では新たに利用できないようになりました。

- ・ V 6 の場合、フォーム変数でフォーム切り替えが可能。
- ・ V 9 の場合、フォーム変数が利用できない。

**[対象]**

データマップファイルで、変数名"\$FORM"が存在する場合。

**[対処]**

次に示すように、フォーム変数を利用できるように設定を行います。

**資源ファイルの修正**

- ① V 9 の FormDesign を起動します。
  - ② フォーム変数を指定したデータマップファイルが登録されているジョブファイル (.sty) をダブルクリックします。
  - ③ ジョブの編集ダイアログにおいて、入力データをマルチデータへ変更します。
  - ④ ユニット一覧の 2 行目 (空白行) をダブルクリックし、ジョブユニットを作成します。
- ※ 1 行目の[フォーム]は空白のままにする必要があります。**
- ⑤ 作成したジョブユニットの ID をダブルクリックし、ジョブユニットの編集ダイアログを起動します。
  - ⑥ [データマップ]-[追加]ボタンをクリックします。
  - ⑦ フォーム変数を指定したデータマップファイルを選択して、[OK]ボタンをクリックします。
  - ⑧ [フォーム]-[参照]ボタンをクリックします。
  - ⑨ フォーム変数で参照されるフォームファイルをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
  - ⑩ ジョブユニットの編集ダイアログの[OK]ボタンをクリックします。
- ④～⑩の手順を、フォーム変数で参照されるフォームファイルごとに繰り返します。

以上の手順で、V 9 においてもフォーム変数機能が有効となります。

②からの手順を、フォーム変数が使用されているデータマップファイルを登録しているジョブファイル全てに行います。

**[解説]**

V 9 ではマルチフォーム機能が追加され、フォーム切り替えはこの機能に吸収されました。従来のフォーム変数の機能は互換のためのみに機能し、新規に作成する場合は、マルチフォーム機能を利用することになります。

・改良実装開始バージョン：V 7

## G. 空データに対するデータ編集の扱い

フリーフォーマットによるデータ編集を設定している場合、空データに対する編集処理が以下のように異なります。

- ・ V 6 の場合、データ編集が行われます。  
たとえば、[ins]など文字列付加のデータ編集において、指定文字列が付加されます。
- ・ V 9 の場合、データ編集が行われません。

### [対象]

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. フリーフォーマットのデータ編集を利用している場合。
2. データ変数を行った変数に“空データ”が割当てられた場合。

### [対処]

次のような互換設定を行うことで、V 9 で V 6 と同じ編集結果となります。

#### Windows

V 9 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”の[Common]セクションに  
”DataEditMode = 1”と入力します。

#### UNIX

環境変数 ”CREATE\_DATAEDITMODE” に“1”を設定します。

### [解説]

改行など何もデータが無い場合は処理が行われなかったことに仕様が整えられました。

- ・ 改良実装バージョン：V 8

## H. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い

棒グラフ（積み上げ）の凡例の表示順序が以下のように異なります。

- ・ V 6 の場合、上から下へ凡例が描画されます。
- ・ V 9 の場合、下から上へ凡例が描画されます。

### [対象]

次の 1～3 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. グラフ変数を利用している場合。
2. 種別で棒グラフ、積み上げを利用している場合。
3. 複数の凡例が出力される場合。

### [対処]

特に対処の内容はありません。

[解説]

積み上げ棒グラフは、下から上に積みあがって描画されるグラフのため、凡例もそれに合わせ下から上に描画されるように改善されました。

- ・改善実装開始バージョン：V 9

## I. XML データ形式の扱い

V 6において、XML データ形式の出力を行っている場合、UpToV9（資源ファイル変換ツール）にて、XML 用の資源ファイル（dmx、stx）をV 9に変換することができません。

[対象]

- ・XML データ形式を利用している場合。

[対処]

V 9の開発環境にて、新たにV 9用に資源ファイルを作成していただく必要があります。移行の際のご相談については、弊社サポートまでご連絡ください。

[解説]

V 9において、XML データ形式の見直しを図った結果、CSV データなどその他データ形式の設定手法との統一感、XML データ形式自体の設定の分かりやすさの観点から仕様の変更を行うことになりました。

- ・改良実装開始バージョン：V 7

## J. PostScript フォントの表示の扱い

フォームにおいて、以下の PostScript フォントを利用している場合、V 6とV 9で出力フォントが異なります。

<Print 製品の場合>

- ・V 6の場合、FormCast 製品の代替フォント（※）で出力されます。
- ・V 9の場合、指定の PostScript フォントで出力されます。

<Cast 製品の場合>

- ・V 6の場合、代替されるフォントによる文字間隔が設定・表示されます。
- ・V 9の場合、指定の PostScript フォントにより文字間隔が設定・表示されます。

（※）代替フォントについては、V 9製品のオンラインマニュアル「機能リファレンス」の第2部第1章「利用可能なフォントについて」の **FormCast** の欄をご覧ください。

## [対象]

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. 固定テキスト、テキスト変数、日付変数、ページ変数を利用している。
2. 以下のフォントを利用している。

AvantGarde-Book	AvantGarde-Demi
AvantGarde-BookOblique	AvantGarde-DemiOblique
Helvetica-Narrow	Helvetica-Narrow-Bold
Helvetica-Narrow-Oblique	Helvetica-Narrow-BoldObl
Bookman-Light	Bookman-Demi
Bookman-LightItalic	Bookman-DemiItalic
NewCenturySchlbk-Roman	NewCenturySchlbk-Bold
NewCenturySchlbk-Italic	NewCenturySchlbk-BoldIta
Palatino-Roman	Palatino-Bold
Palatino-Italic	Palatino-BoldItalic
ZapfChancery-MediumItali	

## [対処]

次のような互換設定を行うことで、V 9 で V 6 と同様の出力結果を得ることができます。

- ① V 9 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV9.ini”の[Form]セクションに”ChangeFontType = 1”と入力します。
  - ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。  
または、①設定の後、UpToV9（資源ファイル変換ツール）にて、フォームファイルを変換します。
- この設定は、開発環境にて行います。

## [解説]

PostScript フォントを指定しても、Cast のフォント代替処理が反映されるという V 6 の不具合のため、V 7 にて改良を行いました。この結果、フォントの出力結果が異なりますが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっています。

- ・改良実装開始バージョン：V 7

## K. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更

各製品の EXE ランタイムで実行した際の戻り値が下記の様に変更されました。

- ・V 6 の場合、常に「0」が返ります。
- ・V 9 の場合、正常終了時には「1」、警告、エラー発生時にはエラー番号（マイナス値 4 桁）が返ります。



[対象]

以下の各製品の EXE ランタイムを利用している場合。

FormCast ランタイム : CCast.exe

FormPrint ランタイム : CPrint.exe

[対処]

特に対処の内容はありません。

[解説]

他 API (Java、.Net) やライブラリ (dll) の戻り値と揃えるため、仕様を変更いたしました。

- ・改良実装バージョン : V 9

## 6. Java API の互換性について

### CCast クラス、CCollect クラス、CPrint クラスの互換性について

CreateFormLib.jar (V 9) の net.createform.XXX パッケージに含まれる CCast クラス、CCollect クラス、CPrint クラスには、旧来の java2create.jar との互換性のために各ランタイム実行メソッドが残されています。ただし、入力データに XML データ、もしくはデータベース直接連携でランタイムを実行する場合は互換性がないので、CreateFormLib.jar (V 9) の API リファレンスに記載された、新規メソッド `synchronizedExecuteRuntime()` を使用するか、現在ご使用の `java2create.jar` をそのままご使用ください。

また、CreateFormLib.jar (V 9) の互換性のために残されたメソッドは、今後のバージョンで削除される可能性があるため、使用に関しては推奨されていません。

## 7. XML データのエンコーディングについて

### XML パーサの変更について

Create!Form では、入力データとして XML 形式のデータに対応しており、その解析のため XML パーサを利用しています。

V 6 まで利用していた XML パーサのライブラリにおいてメモリリークが検出されたため、Create!Form V 9 においては、XML パーサを Xerces-C++(2.8.0)ライブラリへ変更いたしました。このため、XML 形式のデータを利用した場合の対応エンコーディングが以下の様に変更されます。

[V 6 において利用可能な XML データのエンコーディング]

#### Windows

SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16

#### UNIX

SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16

[V 9 において利用可能な XML データのエンコーディング]

#### Windows

SJIS、UTF-8、UTF-16

#### UNIX

UTF-8、UTF-16

## 8. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、弊社サポートページよりダウンロードできます。

また、アップデート作業に関して、ご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■サポートホームページ

URL : <http://support.createform.net/>

■サポートお問い合わせ

E-Mail : [support-c@iftc.co.jp](mailto:support-c@iftc.co.jp)

## Create!Form

アップデートマニュアル[V6→V9]

---

発行日 2009年10月9日 [第1版]

2010年6月7日 [第2版]

発行者 インフォテック・アーキテクト株式会社